

刊夕日七廿月十



定価一冊一円... 発行所 常磐毎日新聞社

オリナシ 秋

木津茂太郎

村の少年達が路でベッタをやつてゐる。半面が禿山になつてゐる丘の下の路で、路の上は草木が青々と茂つてゐる。路の此方は田圃になつてゐる。

ベッタをやつてゐる遠い眺望。少年達が小さく見える。樹の間から見た少年達

(全景)

段々それが大きくなる少年達の半身、ベッタを打つ半身。

いま品太郎といふ脊の高い少年が打つところ品太郎年は十三。

ベッタ(おぼきく)風を喰つて裏返しになる。

また一枚あほられる。見てゐる少年たち。可愛らしい色の白い下ぶくれの顔の少年

十吉も立つて見てゐる年は十二。色の黒い健康相な眼のクッキリした少年

数一。年は十三。すこし足りないらしい少年政次。年は十二。その他二三。中には七

八才の者もある。T「さあ今度は十ちゃん番だ。と政次云ふ。十吉も自分のベッタを取つてあほる。裏になる。ここに顔の十吉。(おぼきく)またあほらうとする。T「おらもうやらねえやと政次云ふ。T「ずるいよ、政次、お前まだ持つてるぢやないか。と品太郎云ふ。『やれ』やれ』と云ふ敷一や外の者。田圃から見た少年達。道から見た少年達。(視角を變へて)ベッタをやつてゐる。

濡れたやうに黒い美しい女の子。十一ぐらのお豊たちが来るのを品太郎見つける。T「遅いなあ、今頃まで何やつとつたんぢやないか。ツンと三人は向ふをむく。品太郎が突然聲を張り上げたので、他の者も立つて、じつと彼方の路を見る。十吉も見る

二明日の献立二

【朝】めば、せり、すまし汁

【晝】魚の鹽焼き、栗きんとん

【晩】才形高野とうふ、たまごとし

お豊歩きながら何気なくチラと十吉の方を向いてにつことする。がやがて、行つてしまふ品太郎と政次と数一、大聲に囁す。T「豊坊の馬鹿ア、豊坊の馬鹿ア——」樹の間から見た路。(や、遠く)三人が囁し立てゝゐる傍にぼんやり十吉が立つて地上のベッタを見下してゐる。

赤坊が生れると最初まぐりを飲ませる習慣がありますが、これは無用のことで、赤坊には母乳にまざるものはないのです。

別の路。——ベッタをやつてゐる路と田圃を隔て、並行してゐる路。学校から歸つて来る三人の少女たち。中にお豊も交つてゐるお豊——色の白い髪

笑話

A「あの娘は實際頭がいゝね、二人分程脳味噌があるんだね」

B「そいつはいゝや、君と結婚すると恰度いゝや」



常磐歌壇

郡司 利雄

ぼつねんとひとりたゝずみひろひろし木の香あたらし金剛書院

正面の不動尊像をうがみて清涼劑を飲む心ちする胸うづくまばらまばらに金剛院めざしてつどふ講習生見て

たゞひとり片隅の柱よりかゝり増す人聲を聞きてゐるのみ

騒がしき人聲はたと風たえて講師先生壇上に立つ

食事



番六四話電

江戸前料理 合名會社

紅葉に近き一日の行樂に

ぜび錦水の御重入辨當を

御供させて下さい

ぜび一度御試食下さい

出前! 迅速! 錦水

電話四五四番

貸切の御用命は!

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ.....(マツサキ)

三九ニタクシーへ!!!

金銀

高價買入致します!

御修繕は

技術に絶対自信を持つ弊店へ

ダイヤ堂

鈴木時計店

平驛前通り

醫院開業

私儀二十三日より左記の場所に於て耳鼻咽喉の診療に従事致し居り候間御眷顧之程奉願上候也

平町字中田町七〇番地【電話六九一】

山内醫院

醫學士 山内 享吉

耳鼻咽喉科専門

平町新川端(釜屋新宅向)

内科 醫學博士 難波 睦

電話五〇二番

美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

セメントの大煙突

破壊して降灰甚し

大浦村の被害約二千圓

損害賠償を強硬に迫る

石城郡四倉町警城セメント會社工場の大煙突は一週間前より
大煙突に 装置されて有るコトロール(セメント吸収器)が破損せる儘にして置いた爲め降灰甚だしく爲めに大浦地内田畑の作物は枯死するもの續出して被害數十町歩に及び損害約二千餘圓に達するので同村

では 目下村長 始め有志が農家の死活問題であると騒ぎ出し會社に對して被害調査並に賠償方に就き嚴重な交渉を開始したので近く同會社でも是れが被害調査に着手する模様であるが解決迄には相當紛議を見るであらうと

一時より小松、庄司、八谷各係官指導の下に明日より開始される發火演習の下稽古を行つた

活氣充滿せる

昨夜の郡民會議

警官の物々しい臨檢裡に 國民窮乏匡救請願を議す

平町に於ける右傾團體として注目される、全日本國民同盟主催の非常時郡民會議は昨日午後六時より

聚樂館に於て開かれ

伊藤一氏議長席に着き窮乏匡救に關する請願各項目を附議し松本清之丞、吉田昌弘、中原四郎其他の諸氏より提案理由の説明或いは賛成演説あつて頗る活氣横溢し請願

要旨を左記の如く決

定午後十時半陛下の萬歳を三唱散會した尙ほ定刻前より會場各所に警察官の臨檢あり物々しき光景を呈したが斯種會合にはつきもの、中止や注意等一回もなく終始靜肅に議事の進行を見た一、大御心の徹底すること治を直に現すること

理科研究教授 既報 平町各小學校尋常科第四學年研究會は本日午後一時より

お断り 伏見彦衛氏の町長時代の思ひ出は同氏出福せるを以つて今明兩日休載

第一小學校に於て開き第一小學校大谷訓導の理科研究教授があつた

ホ、肥料の國家配給等
一、國債並に地方債の利率を年二分に限定すること
一、勤勞國民負擔の租税を軽減すること
一、中小商工業者並に農民に對する無擔保金融の方策を國家に於て即時實行すること
一、借金強制取立の法律を一時中止し相對濟しを公認すること
一、失業救済及失業防止に關する徹底的對策を即時實行すること

國盟幹部

全國民會議に貫徹の猛運動

別項全日本國民同盟の幹部は別項郡民會議に於て決定を見た請願各項目を携へ來月三日明治節を下して東京市に開かる、全國民會議に臨み是れが貫徹を期する由

平信用組合長

諸橋氏が承諾

昨日理事會で決定

平信用組合長青沼鋒太郎氏は平町長に就任した爲め組合長を辭職したので後任選定を昨廿六日午後六時より庶民金庫事務所理事會を開いて協議の結果諸橋久太郎氏に決定同夜その承諾を得た

依作りの

實地講習

平窪村に開く

石城郡平窪村農會では来る廿九日午後一時より同村小學校に於いて依作りの實地講習

平商と

体育週間

平商業學校にては来る十一月一日よりの体育週間の催しを左の如く決定した

(一日)陸上競技大會(二日)野球 庭球 弓道大會(三日)右決勝戰(四日)武道大會

磐中演習稽古 警城 中學校四五年生は本日午後

平第二の圖畫展

入賞兒童が決定

既報平第二小學校にては本日より講堂に於て全校生徒の圖畫展覽會を開催したが各學年の入賞兒童は左の如くである(○印は特選入賞兒童)

- (一)圓卷隆子 橋本トミ 菅明子 白土三重子(一ノ二)菅野榮子

- 北島郁子 河田靜 殿塚はつ(一ノ四)木村イミ 麻植昌子 菅本よし子 太田二三(一ノ三)菅田節子 齋田博子 長谷川八重子 中野雅子(二ノ二)渡邊かな子 千葉恰子 黒木智子 五十嵐澄(二ノ三)鈴木菊子 柴田

- 苦子 馬目てる子 吉田秀子(二ノ三)大嶺悦子 仁平米子 長瀬多美 青木美代子(二ノ四)石川サヨ子 白土アイ子 小谷玲子 有賀定子(三ノ一)海津吉子 關原芳枝 志賀泰子 今井久子(三ノ二)馬目靜 松本ミサ野口チエ子 小松ミサオ(三ノ三)江尻キヨ子 酒井良子 田仲マサヨ 齊藤増代(三ノ四)堀真喜子 櫻庭美代 鯨岡久石山尚子(四ノ一)根本ツネ子 飯塚さと子 金澤久江 小園井瑞美(四ノ二)廣澤トキ子 鈴木スヅ子 小川クミ子 小島美恵 端山多賀子 神山泰子(四ノ三)關内美子 高橋澄子 梶原フミ 高木光子(五ノ一)廣野昌子 秋元キヨ 佐藤トヨ鯨岡富子(五ノ二)石山小夜子 大和田智恵子 諏訪キヨ 大塚みさ子(五ノ三)栗田ケイ子 菅野文子 君島福子 石川秀幸江 飯島しげ 佐藤シダ(六ノ二)阿部トシ子 馬目富代 森久子 阿部智恵子(六ノ三)廣澤好枝 石井フミ子 吉成貞子 松本節恵(高ノ一)山崎ヒロ 荒川ハナ 駒馬愛子 渡邊泰子(同二)大原道子 小林三浩 鶴沼芳子 金子里子(同三)蓬田ふみ 鈴木芳子 佐藤光子 佐々木エキ(高ノ二)諸橋クニ 桐谷文 安齊キミ 小宮幾

平第一校の

唱歌會番組

九日午前八時より開催される平第一小學校唱歌會のプログラムは左の如くである

一部(齊唱)あまたれ小人、一ノ一本本幸三郎外二十五名(同)太平洋、五ノ一小坂隆通外二十八名(同)進軍、二ノ三全(獨唱)げんげ草、四ノ一佐々木高滋(齊唱)うさぎ、四ノ一清水重政外十九名(二部合唱)希望、高ノ一、一松崎康外二十九名(齊唱)せ祭、二ノ一清水俊政外二十六名(同)スキ、五ノ三菅田勝之外二十六名(同)波、三ノ三龜山正邦外二十四名(獨唱)さのこ取、三ノ一遠藤好一(齊唱)白帆、三ノ一三井眞一外三十九名(同)オフネ、一ノ三酒井民平外二十七名(同)山の秋、四ノ三河野茂外二十九名(合唱)曉景、六ノ三山崎道雄外二十九名(獨唱)小鳥は唱ふ、六ノ一會田長太郎(二部合唱)夕べの鐘、高ノ一寺門友巳外廿四名

二部(二部合唱)山彦、高ノ二齊藤武男外二十九名(獨唱)雨降鬼ごっこ、九名(獨唱)雨降鬼ごっこ、二部(獨唱)秀雄外二十名(齊唱)くりかた谷、三ノ二松本眞平外二十九名(同)ダルマサン、一ノ四大谷繁雄外二十七名(獨唱)お玉じやくし、一ノ四石川榮一(齊唱)汽車のたび、二ノ四大平泰明外二十名(同)お星様、一ノ四山崎靖夫外二十七名(同)橋中佐四ノ二千葉直彦外十名(二部合唱)我が同僚、高ノ二青沼三郎外二十九名(齊唱)虫の春、四ノ四高階文三外五名(同)奈良、六ノ二早川忠夫外二十九名(二部合唱)故郷を離るるの歌、六ノ一志賀純一外廿九名

磐城炭礦の宮坑内で 大落盤惨事!

六名生うめとなる

二名辛くも助り四名は惨死

昨夜七時半頃石城郡内郷村宮磐城炭礦第三斜坑内三
千米の地点に於て突然

大鳴動

と共に長さ十五間、幅六間、厚四尺に
亘る大落盤あり同所に於て支柱取拂作業中であつた
西白河郡古關村生れ目下同村字峯根十五號居住木ノ
内久良吉(一)栃木縣那須郡武茂村生れ宮字松田四號
居住田澤幸一(二)田村郡移村生れ宮字峯根五號居住
安田久吉(三)新潟縣北蒲原郡上岡村生れ宮峯根四十
三號居住渡邊軍治(四)西白河郡金山村生れ宮平太郎
三四居住鈴木密治(五)新潟縣南蒲原郡三保町生れ宮
字根峯一居住吉田廣吉(六)の六名は土曜の爲めに生
埋めとなり急報に接した各坑より救援隊が

馳付け

救助作業に努力した結果前記鈴木、吉
田の二名は昨夜十時辛うじて救助、他の四名の死体
は今朝七時迄に全部搬出されたが同斜坑入口には安
否を氣つかふ遺族の者が押寄せて非常な雑踏を呈し
たと

俄然綴礦出水

坑夫行衛不明

相次ぐ磐炭の災害

石城郡内郷村磐城炭礦では
第三斜坑の落盤騒ぎで屍体
搬出中今朝午前七時頃同社
綴坑中に俄然出水あり作業
中の坑夫尾形小治、荒木岸
藏の兩名は行衛不明となり
本日午前十時に至つて尾形
のみ救助されたが荒木は未

だ判明せず同社は相次ぐ
災害に上を下への騒ぎであ
る

廣告詐欺

懲役六月

昨報誇
大な廣
告に依つて詐欺を働いた石
城郡大浦村大字上仁井田字

夕圓百四十九番地無職高木
淳(三)に對して本日午前九
時より平區裁判所に於て關
渡があつた

防火演習

佐藤鐵工場が 自發的に計劃

既報來月五日を期して行は
れる防火運動當日は平署管
内の病院、學校、工場等で
一齊に避難演習を行ふ事と
なつて居り同署より夫々演
習方法を通知した處、平町
月見町の佐藤鐵工所では當
日同鐵工場で行ふべき避難
演習方法の詳細を自發的に
本日平署へ報告して來たの
で係員は大いに喜び他の工
場に於ても斯くの如く力コ
プを入れて貰ひ度いとの希
望を持つて居る

平産婆會

正副會長 昨日改選さる

既報平産婆組合では昨廿六
日午前十時より平署會議室

明日のラジオ

廿八日

今日も明日も北
西の風晴れたり
曇つたり

明日の部

- 後六、〇〇「子供の時間」
童話佛の庄さん(清野學
道)
- 後六、二五 英語講座中等
科(三ノ五)田部隆次
- 後七、三〇 能樂 品川區
北品川梅若能樂堂より中繼
「安達ヶ原」梅若万三郎外
全國ニース 氣象通報
- 後八、三五 義太夫(菅原
傳授手習鑑 淨瑠璃豊竹藤
之助三味線 豊澤力松)
- 後九、〇〇 長唄「其面影
二人腕久」杵屋勝五郎外
大勢
- 後九、三一 滿洲より
番組豫告

今晚の部

- 前九、一〇 料理献立「松
茸の揚げ物外一種」佐藤
つぎ
- 前一〇、三〇 家庭講座
後〇、五〇 連続講座「次
郎長外傳大瀬半五郎」終
席 神田了山
- 後一、五〇 運動競技「六
大學野球リーグ戦試合状
況」
- 後二、〇〇 婦人講座「幼
兒學童の營養について」
(幼兒の標準營養)醫學博
士 大森憲太
- 後六、〇〇 子供の時間
- お話し「坂上田村磨呂」室
谷精四郎
- 後六、二五 英語講座 初
等科(十六)岡倉由三郎
- 後七、三〇 講演「家庭教
育上の御相談」福島縣須
賀川第一尋常高等小學校
長渡邊文彌
- 後八、〇〇 新内「金村屋
おさん」豊屋伊八二重帯名
古屋結「富士松春大夫」
後八、三〇 ラヂオ風景
「音に聞く美術の秋」演出
十岐善磨其の他
- 後九、三一 日本棋院秋季
東西大手合戦續

伏見支會長の 後任者を選挙

石城町村長支會では來る卅
日午前十一時より平町役場
會議室に於いて評議員會並
に總會を開き伏見支會長の
後任選挙を行ふと

稲作坪刈 平窪で行ふ

石城郡平窪村農會では明廿
八日午前九時より會員の稻
作坪刈競争を行ふ事になつ
たので郡農會より青山技手
が出席する筈

放火罪結審

公判へ廻送

既報石城郡内郷村大字綴字
堀坂二十五番地居住芳野廣
次内縁の妻坂内クラ(一)が
本年八月二日午前零時二十
分頃土地賣買の事から感情
を害し隣家の箭内留次方屋
根裏にボロ包を以て放火し
た事件は過般來平支部豫審
廷に於て取調べ中の處本日
終決放火罪として公判へ廻
された

平職業紹介所報告

- △求人を求める方
△雑夫 二十五才迄 尋卒
月八圓位(四倉町某)
- △玩具製造 四十五才迄
日給六十錢委細面談
(平町某)
- △女中 五十才迄 月八圓

平町人事

- △回出 生
△二丁目三四 當時東京市
淀橋區柏木二丁目二二六
白馬教文氏三女俊子
△下川原二仲本秀一氏二男
正由
- △回死 亡
△新川町三二 諸橋淺吉

藤沼醫院

平町紺屋町
電話五〇七番

大野の 柿增收

石城郡大野村果樹組合では
本日第一回の生柿を東京市

東京市場移出

石城郡大野村果樹組合では
本日第一回の生柿を東京市

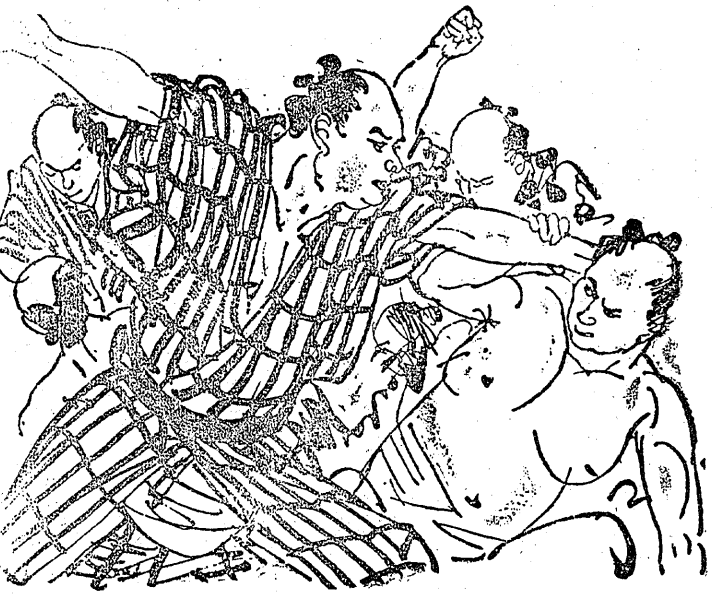
幕末獅子

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第百八十五席 平手造酒

謳歌されて獅子怒る
笹川の繁蔵は宿彌神社を修繕するに就いて平手造酒と二人でこれへ毎日出張して工事の監督をする、と茲にとんだ間違ひが起つた、それはどんな事かと申すに飯岡の鎮守八幡宮の祭禮大そう今年はよく出来たと云ふ事を聞いて笹川の身内西尾の與一、花形の宇吉、水田の六藏の三人が銚子に用達しがあつての戻り飯岡に廻り祭禮を見物する、狭い土地ですが財産家の多い所として作り物なども立派に出來土地の若い者は揃ひの着物でゾロ／＼町をぞめさ歩く、三人は鍋屋と云ふ料理屋に上つてまづ一杯と酒を飲んだが



六「おい姐さん、大そう祭は立派に出来たな」
女「ハイ十年振でございませう」
六「さうだと、何うだらう藝妓を三人ばかり生捕て来てくれ、面白い女がいゝな、座敷に来て顔の白粉を氣にするやうな女では困るまア年を老つた方がいゝ」
女「長まりました早速申付けませう」
下の帳場へ立つて行つた

と云ふやうでは親分と云はれる貫祿なからう。どんな奴だな、そのらしいと云ふ人間は……」
女「笹川の繁蔵親分のお身内でございます」
大「笹川の若い者か、して見れば三下野郎だ、賭場で儲けたと見えて大盡風を吹かしてゐるな、貧乏人が富くじが當つたやうだ、そんなことは何うでもよいが塵が落ちて来ていけねえ、困る奴だな」
大五郎は苦い顔をしてゐる、此方は宇吉に與一に六藏、大分酔つて來た

六「おい藝者今笹川で流行る、大分酔つて來た」
女「オヤア面白い唄でございませう」
六「さア三味線を弾け勢力勝つた神樂獅子這つた、トツビキビイのビイ」
手を叩いて離れて裸體になつて三人は踊り出した、これを下座敷で聞いてゐたは神樂獅子の大五郎に荒濱の勘太、地潜りの又藏、他三人

と裏梯子から駈上つたそんな事とは知らぬ三人、
「勢力勝つた神樂獅子這つたトツビキビイのビイアハハハ……」
と笑つてゐる、そこへ飛込んだ大五郎
大「此奴等、途方もねえ事を云やアがる」
六藏を押へ付けてボカリと頭を打つた
六「何をしやアがる、ウーム汝は獅子だな」
大「獅子があらはれ出した、のだ汝達の骨までしやぶつてやるから覺悟しろ……」
と打振ふる、續いて荒濱の勘太、地潜りの又藏などが宇吉に與一を引倒しボカリ／＼と殴る藝妓は三味線を踏み折られる盃杯は覆へる、刺身は八方に散る、吸物椀は廊下へ飛び出す、イヤ座敷は大騒ぎ鍋屋の主人が料理番を伴れて駆付け、どうぞお静かに願ひますと止めたが聞入れず……
三人を打振ふる……

秋冷の候皆々様には彌々御清祥に涉らせられ慶賀の至りに存じます。
諸て過般弊店の類焼に際しては何彼と御高配を賜はりました誠に有り難く感謝に堪へません、爾來銳意新築工事中の處此程愈々完成し茲に更生の陣容を整へて再びお華客皆々様をお迎へし最善の奉仕が出来る事になりましたので去る十七日より營業を開始いたしましたから何卒倍舊の御愛顧を垂れさせられ度新築落成御披露旁々茲に謹んで懇願申し上げます

尚ほ三階大廣間の宴會席御利用に就ては格安の御相談に應ずる外新設食堂部では
牛鍋御飯付 三十五錢 お酒一本 三十錢
で大々的の勉強を致します。
昭和七年十月

平町新川町
石川亭
電話四三番

季節御料理

鳥 松茸 よせなべ 井類種々
右大々勉強 出前迅速
◎滋養豊富! 風味美味!
是非一度御試食を……
大蒲焼。鳥料理
壽司・折詰仕出し
魚榮
田町(電話四二四番)

難波醫院

平町新川町
電話五〇二番

新築落成開業御披露

セメント 磐城セメント株式會社
壁用材料 代理店 西村屋藥舖
コーラール 代理店 西村屋藥舖
ペンキ塗料 代理店 西村屋藥舖
板 ガラス 代理店 西村屋藥舖
平町二丁目(電話三)